

「予想」を軸にした新たなスポーツ観戦体験創出と次世代ファンコミュニティ形成

採択事業者名

株式会社なんでもドラフト

コンソーシアム構成員

FC今治 | イオンモール今治新都市 | 愛媛オレンジバイキングス | 南海放送

勉強会の実施概要

勉強会の目的	本事業の進捗状況や成果を共有し、県内のスポーツコミュニティ形成のための新たな取り組みに関する興味関心を醸成する。
勉強会の当初のゴール想定と結果	弊社および実装パートナーであるFC今治、イオンモール、愛媛オレンジバイキングス、南海放送の合計5社で勉強会を実施予定で。そのとおり行った。
参加者	上記コンソーシアムメンバーに加え、メディア(愛媛新聞、愛媛CATV)、愛媛県庁、済美高校、スポンサー候補企業2社から、合計20名が参加。
協議アジェンダ	弊社ご紹介(5分)から始まり、本実証実験の概要と当初計画(5分)のご説明、その後は実際の取り組み紹介①FC今治(12分)②愛媛オレンジバイキングス(12分)③南海放送(12分)をご紹介したのち、今年度見えた成果&課題および次年度の方針(5分)、質疑応答(5~10分程度)で終了。
データに基づく協議ポイントの整理	実施した予想コンテンツまわりの数値を公開し、施策の内容とその効果を共有。コンソーシアムメンバーそれぞれの実証実験結果の分析ポイントと今後の展望も紹介した。
主なデータ項目	QRコード&ディープリンクのクリック数、アプリDL数、予想参加者数、テレビ番組視聴率(世帯・個人)、イベント参加人数(パブリックビューイング、クイズラリー)
協議におけるガイドライン(含む具体例)	FC今治・愛媛オレンジバイキングスの予想参加者数は当初目標の200~300名をほぼ達成。イオンモールでのパブリックビューイングも初の満員御礼とデジタル&予想を通じたコミュニティ活性化には手応え。スポンサー獲得は自走化に向けた大きな実績。南海放送、の取り組みでは愛媛マラソンで視聴体験に大きな付加価値を創出。
「実装成果」実現に向けた示唆/考察	スポーツチームとの取り組みでは、チームのコアファンはもちろん、その周辺にいるライト層もしっかり反応し、予想参加者が継続して増えていくことが分かった。テレビ放送ではスポーツ文脈とは関係のないミニ枠の反応は鈍く(それでも継続することで改善)。施策全体をつうじて、一定の興味を持つ層へ正確に投げ込むことが重要。

編集データの抜粋やビ



データ活用・協議の具体例

重要指標 例	アプリDL数 ■スポーツチーム・テレビ局との連携施策での反応 各予想への参加ユーザ数 ■単発イベントに加えて継続参加を計測		
	実装前	実装後	
	データ取得	<ul style="list-style-type: none"> デジタルでの双方向のコミュニケーション手段が少ない ファンやスポンサーへのインパクトを数字としてしっかり把握できる施策はなかなかない 	<ul style="list-style-type: none"> なんドラアプリをつうじて、ファンや視聴者参加型のコミュニケーションが可能に 予想参加者数が明確に表示されるため、即座に各施策の効果が可視化される
	データ活用	<ul style="list-style-type: none"> これまでの経験則や、他県も含めた横並びでの施策展開やスポンサーセールスの金額設定 	<ul style="list-style-type: none"> これまでスポーツやテレビ放送にはなかった新たな取り組みのため、自分たちで施策内容や金額を設定することが可能
実行	<ul style="list-style-type: none"> 新規の取り組みはチームリソースを常に圧迫 	<ul style="list-style-type: none"> チームリソースをほとんどかけずに基本的な予想コンテンツを展開(弊社側のリソースおよびシステムで解決) 注力すべき大掛かりな施策(パブリックビューイングなど)にリソースを集中することが可能に 	
協議	<ul style="list-style-type: none"> 新規事業でPDCAを回すのにハードル、効果が見えにくくリソースを圧迫するため継続しづらい 	<ul style="list-style-type: none"> すべてが明確に数字で出る、かつ、新たな取り組みでもリソースを圧迫しないため、持続可能な新規事業として取り組める 	

データ活用・協議による成果

FC今治・愛媛オレンジバイキングスの予想参加者数は当初目標の200~300名をほぼ達成。イオンモールでのパブリックビューイングも初の満員御礼と、デジタル&予想を通じたコミュニティ活性化には手応え。スポンサー獲得は自走化に向けた大きな実績。南海放送の取り組みでは愛媛マラソンで視聴体験に大きな付加価値を創出。